

## 子どもの権利条約

「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）は、世界中の子どもが健やかに成長できるようにとの願いを込めて、1989（平成元）年11月に国際連合の総会で採択されました。日本は1994（平成6）年にこの条約を結んでいます。

この条約は54条からなっていて、子どもを人権の主人公として尊重し、子どもも大人と同じ独立した人格を持つ権利の主体として捉え、子どもの人権を保障しています。また、子どもは心や体が発達し、成長する途中にあることから、特別に保障されることが必要で、子どもは大人から発達を支援され、援助されなければなりません。

「子どもの権利条約」では子どもの権利として次の4つの権利を守ることが定められています。

### 生きる権利

子どもたちは健康に生まれ、安全な水や十分な栄養を得て、健やかに成長する権利を持っています。

### 守られる権利

子どもたちは、あらゆる種類の差別や虐待、搾取から守られなければなりません。

紛争下の子ども、障害を持つ子ども、少数民族の子どもなどは特別に守られる権利を持っています。

### 育つ権利

子どもたちは教育を受ける権利を持っています。また、休んだり遊んだりすること、様々な情報を得、自分の考えや信じる事が守られることも、自分らしく成長するためにも重要です。

### 参加する権利

子どもたちは、自分に関係のある事柄について自由に意見を表したり、集まってグループを作ったり、活動することができます。そのときには、家族や地域社会の一員としてルールを守って行動する義務があります。

4つの柱



### 土佐町教育委員会

〒781-3492 高知県土佐郡土佐町土居206  
TEL:0887-82-0483 FAX:0887-70-1317  
<http://www.town.tosa.kochi.jp/>  
E-mail tosa-t@kochinet.ed.jp

# 生きる力

## 第三次土佐町幼児教育振興計画



令和4年3月  
土佐町教育委員会



# 第三次土佐町幼児教育振興計画

## 計画策定の趣旨

土佐町では、平成29年に第二次土佐町幼児教育振興計画を策定し、幼児期に相応しい生活習慣の確立と学びの連続性を重視した保育に取り組んできました。

しかし、家庭においては少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化、共働き家庭の増加、デジタル社会の進行等により、子育てに対する不安や負担感、孤立感を抱く人は依然として少なくない状態にあります。保育園においては、0、1歳児を中心に保育園利用園児数の増加、また、特別な支援を要する子どもへの対応や、子育てに不安や悩みを抱える保護者への日常的かつ継続的支援等の充実が求められています。

乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる重要な時期であるため、子ども一人一人の健やかな心と体の発達をめざすとともに、個性を伸ばし自ら学び・自ら考える力を培う保育をめざした第三次土佐町幼児教育振興計画を策定します。

本計画は「第四次土佐町教育振興基本計画」、「第2期土佐町子ども・子育て支援事業計画」など、これまでに策定された関連計画と整合性を図っていきます。



## 保育園

家庭との連携を密にしながら、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所保育指針に基づき子ども一人一人を深く愛し、守り、情緒の安定を図りつつ、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう個別に丁寧に援助します。

- 子どもの健康・安全が守られ、一人一人が生き生きと遊びや活動が展開されるよう十分に養護の行き届いた環境づくりを行います。
- 子どもが自ら意欲的に関われる環境を構成し、一人一人の興味や関心に基づいた体験を通して発達に必要な経験が得られるように関わり、生涯にわたって人との関わりの中で生きていく力の基盤となるよう受容的・応答的な保育を行います。
- 子どものより良い成長を願い、家庭、地域、関係機関と連携を密にした保育を行うとともに、未入園児に対する一時保育や保育園開放を積極的に行い、幼児の相互交流の機会拡大に努めます。



## 計画期間

令和4年度～令和8年度までの5年間(必要に応じて見直しを行います)  
(2022年度) (2026年度)

## 計画の基本的な考え方

- 人間形成に重要な乳幼児期の子どもたちの「未来」を見据え、生涯にわたる生きる力の基礎が培われることを目標とし、子どもたちの「現在」が心地よく生き生きと幸せなものとなるよう、子どもの状況や発達過程、養育環境を踏まえ、保育園では保護者、地域、関係機関と連携を取り、養護及び教育を一体的に行います。
- 乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより育まれる資質・能力を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を念頭に置き発達に必要な体験を構築し一人一人に合った援助を行っていきます。そして保育園と小中学校との連携を深め、円滑な接続を図るよう努めます。



## 育てたい乳幼児像

- 元気で生き生きと遊ぶ子
- 思いやりのある子
- 自分で考えて行動する子
- 絵本好きな子



## 子育て支援センター

参加者同士の交流を深め、地域のひととのつながりを大切にしたい支える関係づくりを行い、保護者が自信を持って楽しく子育てができるように支援します。

また、子ども同士が楽しく遊ぶ体験を通じて未入園児の心の安定や社会性の芽生えを支援します。

- 気軽に楽しく参加でき、ほっとできる居場所づくりを行います。
- 人と人とのつながりを大切に、交流・仲間づくり・学びを深めます。
- 子育てについて気軽に相談できる場づくりを行うとともに、関係機関と連携し、親子遊びや離乳食づくり、食育に関する様々な育児講座や体験活動などの取組を進めます。



## 子どもが健やかに育つための環境を整えます

### 1. 子育て支援センターと保育園の連携

- 子育て支援センター及び保育園は、親と子の育ちの場としての機能を一層発揮し、双方が連携して子育て・親育ち支援を行います。
- 未入園児がいるすべての家庭を子育て支援専門員、保育者などが訪問し、子どもと保護者の心身の状況や養育環境等の把握を行い、情報提供や相談に応じるなど子育てを支援します。



### 2. 保育園と小学校の円滑な接続の推進

- 接続期カリキュラムの実践・改善・保育園と小学校の連絡会、交流活動、また、保育者・教員を対象とした研修等により共通認識を深め、子ども達を健やかに育てていくための円滑で確実な接続を図ります。

### 3. 特別な支援を必要とする幼児・家庭への支援の充実

- インクルーシブ教育システムの構築を目指して多様性を尊重し、関係機関と連携した支援の充実を図るとともに、小学校へ円滑な接続ができるよう生活習慣や生活環境の改善に向けた取組を行います。

### 4. 保育者の資質・専門性の向上

- 研修機会を十分に確保し、園内外研修(県主催の研修への参加・自園・講師を招く等)を充実させ、また、研修で得た知識を保育者間で共有することにより、保育園全体としての保育実践の質及び専門性や実践力の向上につなげます。



### 5. 読書活動の推進

- 保育園や子育て支援センターで絵本の読み聞かせ、本の紹介や貸し出しを行い、豊かな表現力やコミュニケーション力の向上を図ります。

